

2025 年度事業計画書

学校法人新潟青陵学園

目 次

I. 2025 年度事業計画の概要……………	1
II. 建学の精神、ミッション・ビジョン、長期目標、長期戦略……………	1 ～ 2
III. 設置する学校・学部・学科等……………	3
VI. 学園及び設置学校の事業計画……………	4 ～ 1 5
i. 学園	
ii. 新潟青陵大学	
iii. 新潟青陵大学短期大学部	
iv. 新潟青陵高等学校	
v. 新潟青陵大学こども園	
V. 組織図……………	1 6

I. 2025 年度事業計画の概要

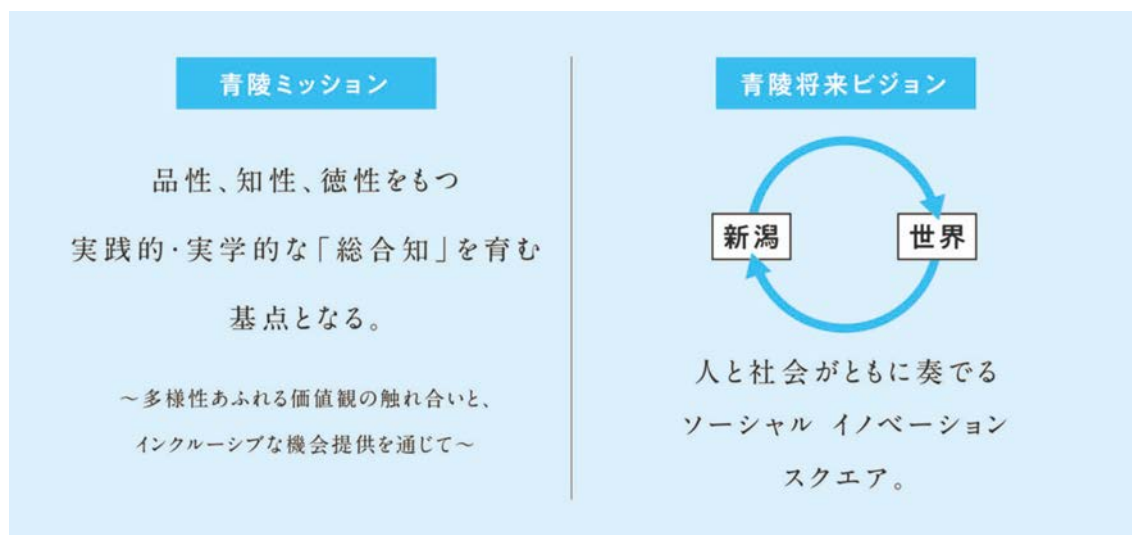
新潟青陵学園は、2023 年 5 月に建学の精神を起点にした本学園の基本姿勢を示す「青陵ミッション」と学園の 2040 年のあるべき姿・目指す姿を描いた「青陵将来ビジョン」を策定した。また、この「青陵将来ビジョン」達成のために、2025 年から 2039 年まで 3 期にわたる 5 か年ごとの中期目標・計画を策定することとした。第 1 期にあたる 2025～2029 年度の中期目標・計画をさらに具体化し、実行性を高めることを主眼に置いて、2025 年度事業計画を、学園・大学・短期大学部・高等学校・こども園ごとに策定、それぞれの学校の計画を「研究」「教育」「地域貢献・社会連携」の三分野に集約し、可能な限りシンプルな形で統合した。

II. 建学の精神、ミッション・ビジョン、長期目標、長期戦略

■建学の精神

日進の学理を応用し、勉めて現今の社会に適応すべき実学を教授する。

■ミッション・ビジョン



学園で学ぶ学生、生徒、園児等を第一に考え、高い満足度をもって学生生活を送ることができるよう、教育・研究を充実させるとともに、社会連携を強化し、地域社会に貢献することで学園の社会的評価を高めていくことで将来ビジョンを実現し、もって持続的な学園経営を図ることを目的とし、以下の長期目標及び長期戦略を設定した。

■長期目標

経営 (組織・人事・財務・事業ポートフォリオ)	「戦略に基づいた成長投資」「経営基盤安定化のための財務規律堅持」の両立 i. 経営のスピードアップを目的としたガバナンス改革、それを支える組織・人事改革 ii. 高校、短大にオンラインを活用した通信制課程を設置
研究	日本におけるソーシャルイノベーション研究の拠点となる i. ソーシャルイノベーションに関する研究業績数を日本トップクラスに ii. 学園内及び学外（産官学）との連携拠点の構築 iii. 研究・教育・実践の相互関連性を高める組織体制を構築
教育 (人材育成)	SEIRYO スタンダード教育の実現 i. こども園・高校・短大・大学がそれぞれの資源を生かしながらしームレスに繋がる教育プログラムを提供 ii. 企業・地方公共団体・大学等の外部団体や個人と連携した教育プログラムを提供 iii. オンラインを活用しエリアと年齢を超えた教育を提供（小中サポート・生涯学習・リスキリング・等） iv. 園児・生徒・学生の全員が何らかの形で異文化交流を体験
実践 (社会貢献)	ソーシャルサービス、社会連携の強化 i. 産官学と連携するソーシャルイノベーションセンターを設置 ii. 地域課題解決に資する NPO 法人設立・起業支援・連携プログラム策定
キャンパス施設設備	ハイブリッド教育及びダイバーシティ&インクルーシブキャンパスの実現 i. 様々な年代がシームレスに学び合えるキャンパスへ ii. メタバースを活用した教育を行うメタバースキャンパスの設置 iii. オンライン教育を前提とし、それを発展・補完する対面交流の場 iv. 多様な人々が集い異結合による新たな価値が創造される場

■長期戦略

- ・学校運営から戦略的学園経営へのシフト
- ・デジタルを活用した経営、研究、教育の改革（DX）
- ・オンラインを活用し対象年齢及びエリアのセグメント拡大
- ・青陵独自の研究、社会貢献、教育プログラムの開発

Ⅲ. 設置する学校・学部・学科等

(2025 年 4 月 1 日現在)

設置する学校	開校年月	学部・学科等	収容定員
新潟青陵大学	2000 年 4 月	大学院 看護学研究科 (2014 年 4 月) 臨床心理学研究科 (2006 年 4 月)	32
		看護学部 看護学科 (2015 年 4 月) 福祉心理子ども学部 (2023 年 4 月) 社会福祉学科 (2015 年 4 月) 臨床心理学科 (2015 年 4 月) 子ども発達学科 (2023 年 4 月)	940
新潟青陵大学短期大学部	1965 年 4 月	人間総合学科 (2004 年 4 月) 幼児教育学科 (1968 年 4 月)	660
新潟青陵高等学校	1948 年 4 月	全日制 (普通科) (1960 年 4 月)	1,080
新潟青陵こども園	1967 年 4 月	幼稚園型認定こども園 (2020 年 4 月)	115 (利用定員)

VI. 学園及び設置学校の事業計画

i. 学園

■事業ポートフォリオ

1 2026 年度在籍者&2025 年度資金収支バランス目標
大学：在籍者数 1,040 人 資金収支バランス（＋） 短大：在籍者数 609 人 資金収支バランス（－） 高校：在籍者数 779 人 資金収支バランス（＋－0） こども園：在籍者数 84 人 資金収支バランス（＋－0）
2 通信教育（制）課程の各種体制の整備
①通信教育課の設置 ②高校と短大での生徒及び学生募集業務共有化の可能性を検討 ③社会人及び専門学校への募集方法及び体制の確立
3 内部進学強化に繋がるカリキュラム・支援体制等の整備
①高校通信制課生徒が大学・短期大学部の授業を履修できるよう制度を整備 ②専門学校志望の青陵高校通学制生徒へ短期大学部紹介イベント実施
4 SI 推進機構の新設及び体制整備
①SI（ソーシャルイノベーション）推進機構を新設 ②既存センターとの関係を整理
5 SI 研究科の検討・設置認可申請の体制整備
①SI 研究科検討チームを設置
6 青陵アルムナイの組織化
①アルムナイサイトの構築 ②2025 年 10 月に 125 周年事業を実施
7 国際交流及び留学生受入れのための体制整備
①国際交流・留学生センターを新設 ②高校・短大・大学での留学生受入

■人事制度改革

1 既存業務効率化、人材データ活用のためシステム導入
4 月…初期設定の開始 9 月…データベースへの従業員データの入力完了 10 月…運用開始 3 月…労務管理業務の全般をシステムで実施できるように構築完了
2 現状分析の実施
5 月…人事に関わる外部環境の分析 6 月…経営戦略の把握 7 月…組織構造の把握 8 月…人材マネジメントの把握 9 月…人事制度の分析、現状分析全体のまとめ
3 人材戦略の策定
10 月～12 月…求める人材像の設計 1 月～3 月…序列の付け方の基準及び評価のメリハリ度合いの決定

■学園ファイナンス機能強化

1 管財資源の校種別比較の数値化及び中長期修繕計画策定
①2040年までの大学・短期大学部校舎、高校校舎、こども園園舎ごとの修繕計画を策定
2 校種別収支（資金収支）見込み作成
①大学・短期大学部・高校・こども園ごとに2026～2029年度の収支見込みを作成
3 寄付募集目的・目標額・受付期間等の設定、規定整備
①125周年事業に係る寄付の目標額・受付期間の設定
②規定の見直しを実施
4 寄付募集のプラットフォーム作成
①他大学の事例を収集・分析
5 資産運用目的・期待リターン・運用期間等の設定、規定整備
①退職給与引当特定資産の取り扱い、学園未来基金特定資産（仮称）の創設
②運用規定の整備
6 資産運用の基本ポートフォリオ策定
①GPIF・私学事業団・他大学を参考にしながら資産運用ポートフォリオを策定

■その他

1 健康経営の推進
「健康経営宣言」団体として、衛生管理規程の整備、教職員健康診断、ストレスチェックの個人分析及び集団分析結果等を活用した職場環境改善活動等、教職員がいきいきと働ける環境整備等の労働衛生活動を自律的に進め、健康経営のさらなる推進を図る。
2 マネジメント体制の整備・業務の効率化
迅速な意思決定と的確なマネジメントを支える体制の構築のため、全学的意思決定システム及び各種マネジメント体制の整備を引き続き行う。 定型業務の効率化、合理化、アウトソーシング等を積極的に推進し、将来ビジョンに係る新規事業に取り組む。
3 内部統制システムの整備・運営
内部統制システム整備の基本方針（2025.1.23理事会決定）に基づき規程整備を引き続き行うとともに、方針・規程の周知と内部統制システムに基づく業務運営・検証を行う。

ii. 新潟青陵大学

■研究

1 学内研究助成金制度の拡充
申請数の増加を促し、外部資金獲得力を高める。
2 researchmap の登録情報や研究業績書の定期的更新
FD ポートフォリオを改定し更新状況の確認を行いやすくする。
3 地域課題解決につながる研究シーズ集の作成
研究支援室で計画されているシーズ集作成方針に基づいて研究シーズをまとめる。
4 教員 FD ポートフォリオ等を活用した評価
人事評価に反映させることができるような評価を検討する。
5 サバティカル制度の定着に向けた意識の醸成
サバティカル制度への応募を促すとともに、安心して応募できる体制を検討する。
6 学会の年次大会開催に向けての支援体制の構築
FD・SD 委員会と研究支援室が連携して支援体制を検討する。
7 学内の科研費データベースの構築
SD・FD 委員会と研究支援室が連携して構築する。
8 機関リポジトリの拡充
研究支援室と連携して拡充を図る。

■教育

1 新潟県内進学校との連携強化
高校への訪問でのニーズ聞き取りと本学のアピールを行う。
2 中学高校生向け講座の拡充
ニーズに合った講座を計画し実施するとともに、事後アンケートを実施し点検・評価する。
3 学生確保につながる出張授業の検討
ニーズに合った出張授業を提供するとともに、事後アンケートを実施し点検・評価する。
4 連携協定校拡充と提案できるコンテンツの準備
連携協定校のニーズを把握するとともに、本学からの提供可能性を検討する。
5 社会人（職業人）への広報の見直し
どのような層にそのような内容の広報をするのが社会人学生獲得につながるか、成功事例などから検討する。
6 一般選抜・共通テスト利用の併願システムの構築
より出願しやすいシステムを構築する。
7 総合型選抜の他学科併願システムの構築
より出願しやすいシステムを構築する。
8 全学部全学科での留学生選抜の検討
留学生のニーズ把握をするとともに、本学の受け入れ態勢を整える。
9 留学生選抜の方法や実施時期の検討
留学生が出願しやすい入試を検討する。
10 社会人選抜（編入学を含む）の検討
社会人が出願しやすい入試を検討する。
11 学修プロセスの見える化のための学修ポートフォリオの検討
試験的に学修ポートフォリオを作成し検討する。

12 達成状況の評価とフィードバック方法の確立（GPS-A の学生フィードバック含む）
GPS-A のデータをどのように学生にフィードバックし活用を促す。
13 多様な教育方法の試行的実施と結果検証及びノウハウの共有・蓄積
多様な教育方法で試行的に実施された授業について、授業アンケートなどで結果を検証する。
14 多様な教育方法に対応するための各種 FD・SD 研修会の実施
研修会を計画し実施するとともに、参加率をあげる。
15 多様な学生に対応するための学生参画 FD の企画
学生参画 FD を企画・実施し、現状の課題を把握する。
16 グッドレクチャー賞・ベストティーチャー賞創設の検討
どのような指標を用いて評価するのが適切か、他大学の先行事例などを参考に検討し、次年度実施を目指す。
17 オリエンテーションキャンプ及びリーダーを育てる研修の実施
研修参加の呼びかけを行い確実に参加者を集めて実施する。
18 デジタルを活用した、個別の進路支援の実施（キャリアに関する情報提供体制の整備、オンラインでの書類添削や面談練習など）
オンラインを活用した個別進路支援の実施。
19 学生支援部門と関係者による連携会議の定期開催（半期に 1 回）
半期に 1 回開催し、今後の体制を検討する。
20 学生の心身の健康にかかわる危機管理体制の検討、各部署の危機管理マニュアルの確認
マニュアルの確認と未整備部署への対応依頼。
21 アドバイザー制度の見直し
学科単位での検討のち、全体での検討を行う。

■地域貢献・社会連携

1 公開講座・生涯学習講座
社会連携センターが企画・実施する公開講座・生涯学習講座に参画し地域へ学習機会を提供する。
2 特別受講生制度
社会連携センターが企画・実施する特別受講生への高校生の受け入れを準備する。
3 リカレント教育
社会連携センターが企画・実施するリカレント教育に協力する。
4 新潟日報社連携事業（にいがた鮭プロジェクト、学生制作フリーペーパー事業）
社会連携センターが継続的に展開する学生主体の取組に協力する。
5 行政機関、社会貢献企業、学会との共同プログラムの推進
社会連携センターが推進する行政機関、社会貢献企業、学会との共同プログラムに協力する。
6 学生に向けたボランティア情報の提供と活動サポート
ボランティアセンターからの情報提供と活動サポートに協力する。
7 ボランティア活動プログラムの開発と提供、ボランティア関連科目との連携プログラムの開催
ボランティアセンターと連携してプログラムを企画・運営する。
8 災害支援に繋がる持続可能な防災学習の開催
ボランティアセンターと連携して災害支援に繋がる持続可能な防災学習プログラムを検討する。

9 コミュニティサービスラーニング推進プラットフォームとしての「コミュニティ・カフェ」開設
社会福祉学科を中心に、「コミュニティ・カフェ」開設を準備する。
10 海外留学の支援
国際交流・留学生センターと連携して、海外留学の支援の在り方を検討する。
11 学修プロセスの見える化のための学修ポートフォリオの検討
国際交流・留学生センターと連携して、留学生受入の準備を進め、留学生を獲得する。
12 海外からのギャップイヤー・ボランティアの受入れ
海外からギャップイヤー・ボランティアを受入れることで、キャンパス内でも体験を通した異文化の理解と信頼関係の構築できる体制を目指す。
13 国際ボランティアへの参加
既存の国際ボランティアプログラムへの参加を促すとともに、新しい国際ボランティアの情報を収集し、学生に提供する。
14 学内外での国際交流行事の開催・紹介・参加奨励
国際交流・留学生センターと連携して、国際交流行事の企画や紹介をし、学生・教職員の参加を奨励する。
15 国際交流を目的とした海外協定校の新規開拓
国際交流・留学生センターと連携して、国際交流行事の企画や紹介をし、学生・教職員の参加を奨励する。

■将来計画と経営

1 通信制導入の基本構想・年次計画策定
大学運営会議のもとに、臨時部会【通信制導入の基本構想・年次計画策定部会】を置き、検討を開始する。
2 社会人向け教育プログラム提供の検討
上記の【通信制導入の基本構想・年次計画策定部会】で通信制導入を検討したのち、学位を伴わない社会人向け教育プログラム提供を検討する。
3 専門領域としての介護人材養成の拠点化
大学運営会議のもとに、臨時部会【専門領域としての介護人材養成の拠点化検討部会】を置き、検討を開始する。
4 IRデータの共有徹底と活用促進のための基盤整備
必要な基盤について整理し、導入計画を立てる。
5 IRデータの分析と活用研修
SD・FDの一環として、IRデータの分析と活用に関する研修を実施する。
6 人件費比率の適正管理（人件費軽減目標値と年次計画の設定）
目標とする人件費率を設定し、定年制度・再雇用制度を含めて、そこに至る年次計画を立てる。
7 教育・研究におけるAI技術活用事例研修
SD・FDの一環として、教育・研究におけるAI技術活用事例研修を企画する。
8 管理業務の効率化のためのAI技術研修
SD・FDの一環として、管理業務の効率化のためのAI技術活用事例研修を企画する。
9 卒業生名簿の管理体制の構築
先行している短期大学部の体制を参考に、大学の卒業生名簿の管理体制の構築の計画を立てる。

iii. 新潟青陵大学短期大学部

■研 究

1 学内での様々な分野にまたがる研究者による研究会の実施
①学科ごとに複数教員が共同研究する研究会を立ち上げ、年度末に研究成果の報告を行う。
2 単著・共著の公刊、シリーズ化の実現
①単著・共著の公刊を促進し、一冊の公刊を実現する。また、短大研究叢書のようなシリーズ企画の検討を開始する。
3 学会活動の報告会の実施
①学会及び研究会で出張した教員による成果報告会を実施する。また、全教員が閲覧可能な報告書を作成する。研究推進費により出張した全教員を対象とする。
4 競争的外部資金への応募の増加
①科学研究費補助金をはじめとする外部資金への応募件数を昨年度より 5%増を目指す。

■教 育

1 2 年次の演習成果を発表
①人間総合学科：開設された半数の特別研究について、成果発表の時間を設定し公開する。または、提出物などを閲覧・視聴できる形で公表する。
②幼児教育学科：保育実践演習ごとに研究発表を行う。
2 オンデマンド教材のピアレビュー
①通信教育課程のために作成したオンデマンド教材についての複数教員でのピアレビューを行う。基幹教員が作成したすべてのオンデマンド教材を対象とする。
3 ポータブルスキルの習得を目的とした授業の報告会の実施
①ポータブルスキルの修得を目的とした授業について、実施後担当教員による報告会を実施する。
4 多様性やインクルージョンに関するワークショップや学びの場を提供する
①学生が異なる視点や経験を理解し尊重することを学ぶために、多様性やインクルージョンに関するワークショップや学びの場を複数提供する。
5 リスキリングのための教育プログラムの開発
①リスキリングのための教育プログラムの立案のため、関係する教職員によるリサーチを実施する。本年度は先行事例 5 件以上について行う。

■地域貢献・社会連携

1 連携事業の可視化・公表
①短大教員が関係した連携事業の一覧を作成し、概要を公表する。
2 授業・履修プログラムに繋がる企業や自治体との連携事業の拡大
①現行の企業・自治体と連携した履修プログラムを踏まえ、通信教育課程への展開も見据えた拡充のプランを作成する。
3 公開講座の充実
①公開講座数の前年度比 5%増を目指す。
4 リスキリングのための履修プログラムの開発
①オンデマンド実施可能なリスキリングプログラムを連携している企業と策定する。

iv. 新潟青陵高等学校

■研 究

1 ホームルームの活性化（意図的・計画的な実施計画の策定）
①ホームルーム年間計画の策定と実施（学習指導要領におけるホームルーム活動の内容 12 項目を意図的・計画的に実施）
②人間関係づくり（ポータブルスキル、コミュニケーションスキル）の推進
2 特別活動（生徒会・専門委員会）の活性化（組織・活動の在り方）
①生徒会本部、専門委員会の活動の明確化
3 授業公開、相互交流、研究授業（ロールモデル）の実施
①授業公開（教員相互交流週間、保護者参観週間）の実施
②授業研修会（授業研究の提案、研究授業→ロールモデル）の実施
4 ICT を活用した授業づくり
①ICT 活用のミニ研修の実施
②chromebook（Brend）の効果的な活用
③Canva の活用
④InspireHigh の活用
5 教育支援班による研修（アセスメントなど）・授業の充実
①ASSESS「学校環境適応感尺感アセス」の導入（年 2 回実施）
②ASSESS 活用についての職員研修の実施
③コミュニケーションスキル、SOS の出し方、こころの授業、性と生の授業、命をつなぐ献血など
6 探究型テーマ研修の在り方
①3 年間を見通した「総合的な探究の時間」計画の作成
②地域探究～体験活動（社会実学体験）の推進
7 大学・関係機関、外部機関との連携の在り方
①窓口の明確化
②連携協力機関の開拓
8 SDG s など教科横断の学びの実践
①横断的シラバスの作成と SDG s などの内容の関連付け
9 特色ある魅力的な学校行事の企画・実施
①青陵学園学園祭と高校青松祭（文化祭）の共同開催
②生徒が主体的に運営する体育祭
③人権教育（拉致被害者救出の講演会）
10 スポーツ科学に基づいた部活動の推進
①「スポーツ科学に基づいた部活動運営」の講演会の実施

■教 育

1 3 コース教育課程の充実
①新 3 コース（エンパワメントコース、キャリアデザインコース、キャリアアドバンスコース）の3年間を見通した教育課程編成の具体化 ②学年主任とコース長を中心とした体制（チーム）づくり・コースの特色が明確化される来年度の具体的計画づくり
2 ホームルームの年間計画の充実（人間関係づくり、人権教育など）
①ホームルーム年間計画の策定と実施（学習指導要領におけるホームルーム活動の内容12項目を意図的・計画的に実施） ②人間関係づくり（ポータブルスキル、コミュニケーションスキル）の推進
3 問いと振り返りのある授業、ICT教育の推進
①ICT活用のミニ研修の実施 ②chromebook（Brend）の効果的な活用（学びのポートフォリオ化） ③Canvaの活用 ・ InspireHighの活用
4 特別活動の充実（生徒会、専門委員会、学級活動）
①生徒会本部、専門委員会の活動の明確化・生徒が主体となる（活躍する）場の拡大 ②各学級での係活動の充実
5 UDL（青陵スタンダード）の実施、校内支援体制及びケース会議の充実
①青陵スタンダード（UDLチームが作成）の共同実践 ②生徒指導部と教育支援班の密接な連携 ③ケース会議、事例検討（養護教諭、スクールカウンセラー、臨床心理士、SSWなど専門職との連携）
6 探究型テーマ研修の実施
①3年間を見通した「総合的な探究の時間」計画の実施 ②地域探究～体験活動（社会実学体験）の推進 ③InspireHighの活用
7 全日制課程定員の充足
①令和8年入学者（ $36 \times 8 = 288$ 人）の定員充足 ②多様な広報活動 ③中学校及び塾、フリースクールなどの訪問
8 全日制課程卒業率の向上
①学校生活不適応者の早期発見（多面的な観察、ASSESS・いじめ調査などの活用） ②ケース会議、チーム支援によるきめ細やかな支援・サポート
9 全日制課程卒業生の多様な進路実現
①一人一人の興味・関心、適性・特性に応じたきめ細やかな支援・サポート ②青陵大学・短期大学部の教育課程内容（シラバス）の理解・周知 ③四年制大学50%、短期大学30%、就職その他20%
10 部活動の充実（重点化、成果向上、参加率50%）
①部活動の重点化（選択と集中）を基にした部活動の充実 ②インターハイなどの全国大会への進出 ③部活動の広報・勧誘による参加率の向上

■地域連携・社会貢献

1 3年間を見通した総合的な探究の時間の実施
①3年間を見通した「総合的な探究の時間」計画の実施・地域探究～体験活動（社会実学体験）の推進
②InspireHighの活用
2 ホームルームや特別活動を活用した人間関係づくり
①ホームルーム年間計画の策定と実施（学習指導要領におけるホームルーム活動の内容12項目を意図的・計画的に実施）
②人間関係づくり（ポータブルスキル、コミュニケーションスキル）の推進
3 ボランティア活動の推進（生徒会、ボランティアセンターとの連携）
①生徒会、専門委員会、有志によるボランティア活動
②ボランティアセンターと連携したボランティア活動等
③松林、海岸、マリンピア日本海、日本赤十字社新潟支部などの有効活用
4 社会連携センター、ボランティアセンターなど学園の各センターとの連携
①社会連携センター、ボランティアセンター、国際交流・留学生センターなど、学園機関との連携強化
②国際交流の推進及び留学生支援
5 青陵大学・短期大学部との連携強化
①総合的な探究の時間、進路学習、進路に向けた動機付けなど青陵大学・短期大学部、学園機関との連携強化
②相互の連携窓口の明確化・ミニオープンキャンパスの拡充
6 新潟医療福祉大学、東京農業大学など他大学・専門学校等との連携強化
①総合的な探究の時間、進路学習、進路に向けた動機付けなど地元大学・専門学校との連携強化
②相互の連携窓口の明確化
7 マリンピア日本海、日本赤十字社新潟支部など外部機関との連携強化
①総合的な探究の時間、進路に向けた動機付けなど近隣のマリンピア日本海、日本赤十字社新潟支部など外部機関との連携強化
②相互の連携窓口の明確化
8 新潟市内の各種施設、地域資源の活用
①バーチャル市役所の発展～フードメッセ in にいがた 2025、にいがた6次化フェア、食文化創造都市推進プロジェクトなどの探究
②食育・花育センター、どうぶつふれあいセンター、スケートパーク、アイスアリーナなど各種施設の活用
③護国神社、白山神社、みなとぴあ（新潟市歴史博物館）、西海岸公園などの地域資源の活用
9 学習成果の公表
①総合的な探究の時間などの学習成果を保護者・関係者などに向けて公開
②マスコミや地域にも情報提供
10 地域創生デザインの作成（青陵プラン）
①総合的な探究の時間「バーチャル市役所」の探究を、実効性のある「地域創生デザイン（青陵プラン）」作成へと発展

■2025 年度重点事業(広域通信制課程の設置準備)

1 広報活動の多面的展開と生徒数の確保
①広報活動の多面的展開（合同説明会・相談会、学校案内、学校サイト、WEB 広告及び SNS、情報サイト、直接訪問など） ②4 月：計画適当～認可申請予定、5 月：申請書提出後～認可申請中、入学案内の配布 ③設置認可後（7 月末・8 月以降）：入学願書の配布、面談、受検など
2 個に応じたきめ細やかな支援・サポート体制の確立
①青陵スタンダード（UDL チームが作成）の共通理解 ②養護教諭、スクールカウンセラー、臨床心理士、SSW など専門職との連携の明確化、青陵学園心理センターとの連携 ③学習等支援施設（サポート施設）の設置、学生メンター（アルバイト）活用方法の明確化
3 ポータブルスキルの育成
①学校設定科目「ポータブルスキルⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を発展・効果的に運用できる教材の開発 ②社会課題解決力の基盤となるポータブルスキル、特にコミュニケーションスキル等を育成 ③実践的・実学的な力量を段階的に高め、自立した社会人の基礎を培う
4 インストラクショナルデザインに基づいた授業及びオンデマンド教材の充実
①生徒一人一人が自主的に学習できるようインストラクショナルデザインに基づいた授業 ②社会課題解決力の基盤となるポータブルスキル、特にコミュニケーションスキル等を育成 ③実践的・実学的な力量を段階的に高め、自立した社会人の基礎を培う
5 ハイブリッド教育（双方向型のコミュニケーション）の推進
①LMS 機能の構築（オンラインでの双方向型コミュニケーション） ②添削指導（レポート）におけるオンデマンド型教材の作成 ③面接指導（スクーリング）におけるインストラクショナルデザインの授業設計、ポータブルスキルの活用、オンラインでの代替授業の作成
6 探究学習（地域資源と地域人材の活用）推進
①地域資源、地域人材の開拓と教材化 ②学びのポートフォリオ化の設計 ③InspireHigh の活用
7 青陵大学・短期大学部及び連携大学との連携強化
①「大学連携講座」の設計と具体化 ②面接等実施施設（関東学院大学、実践女子中高）での面接指導の具体化と担当教員の明確化 ③学習等支援（サポート）施設（新潟青陵大学内、関東地区）の設置の具体化
8 就労体験・インターンシップの実施
①特別活動における就労体験・インターンシップの可能性の調査・研究 ②企業同好会や地元企業・商店などとの連携の可能性の調査・研究
9 対面でのサポート（メンターの活用）の実施
①学習等支援（サポート）施設（新潟青陵大学内、関東地区）の設置の具体化 ②メンターの活用（大学生、教員、社会人など）の具体化
10 探究力、ポータブルスキルを段階的にアップデートする教育環境の設定
①学びのポートフォリオ化の設計 ②InspireHigh の活用 ③ポータブルスキル、特にファシリテーションスキル等を高める活動の具体化

v. 新潟青陵こども園

■研究

1 「健康」領域を踏まえた研究計画の立案
①全国学校体育研究会新潟大会に向けて、研究テーマを「健康」領域で設定する。
②令和8（2026）年度の本大会までの研究計画を立案する。
2 プレ大会での研究保育と協議会開催
①11月21日のプレ大会で、公開保育を行う。
②本大会の日程に沿って、協議会を行う。
3 近隣4小学校と幼稚園・こども園・保育園との間で年2回の幼保小連携研修会の開催
①近隣4小学校と幼稚園・こども園・保育園で研修会を開き、幼保小の連携計画を立てる。
②連携計画の進捗状況を話し合い、来年度の方向を話し合う。

■教育

1 長期・短期指導計画の作成による遊びの最適化
①年間指導計画に、年齢に合わせた遊びを記入する。
②月案に前月の遊びの様子を基にして、当月の遊びの方向を決めて記入する。
2 「個別の指導計画」作成による指導の個別化
①「個別の指導計画」について、診断の出ていない園児についても作成する。
3 子ども発達相談室における年3回の「発達神経専門医相談」の開催
①子ども発達相談室で、長岡療育園の山田謙一先生から「発達神経専門医相談」を年3回行ってもらう。
4 園児の意見を取り入れた主体的な園行事の実践
①園行事の度に、園児からの希望や意見を取り入れる。
5 折り合いや集団遊びの相談への「サークルタイム」の取入れ
①ライゲンの後や学級で問題が起きた時に、「サークルタイム」を開く。
6 乳幼児期の学びに即した保育方法・内容の質向上を目指した事例の蓄積
①年間を通して、乳幼児期の学びに即した保育方法・内容の質向上を目指した事例を保存していく。

■教育（新規事業：0歳児からの受入れ）

1 トイレと調乳室の増設補助金を申請する。
①業者から工事の見積を取り、資料を揃えて新潟市に提出する。
2 0～2歳児の保育について研修する。
①連携先の小規模保育事業所で0～2歳児の保育を体験し、指導計画の情報を集める。
3 職員の勤務体制を整備する。
①保育経験のある学級担任を採用する。
②保育を担当する主幹を募集する。
4 1・2歳児の学年別保育計画を作成する。
①連携先の小規模保育事業所から集めた指導計画の資料を基に、保育計画を作成する。
5 1・2歳児を募集する。
①11月からの園児募集で1・2歳児を募集する。

■地域貢献・社会連携

1 新潟市の手引きや先進事例等からの資料収集と収支見通しの把握

- ①新潟市の「障がい児通所支援事業者指定申請の手引き」（令和 6 年版）を入手して、詳細を把握する。
- ②近隣のこども園を訪問して情報を集め、収支見通しを立てる。

V. 組織図

